

新庁舎整備について

市民の皆さまにお伝えしたいこと (Vol.2)

新庁舎整備事業について、これまでに市民の皆さまからいただいたご質問のうち、特に多かったものについてお答えしています。また、詳しい内容をホームページにも掲載しています。 [HP](#) [松江市](#) [新庁舎](#) で検索

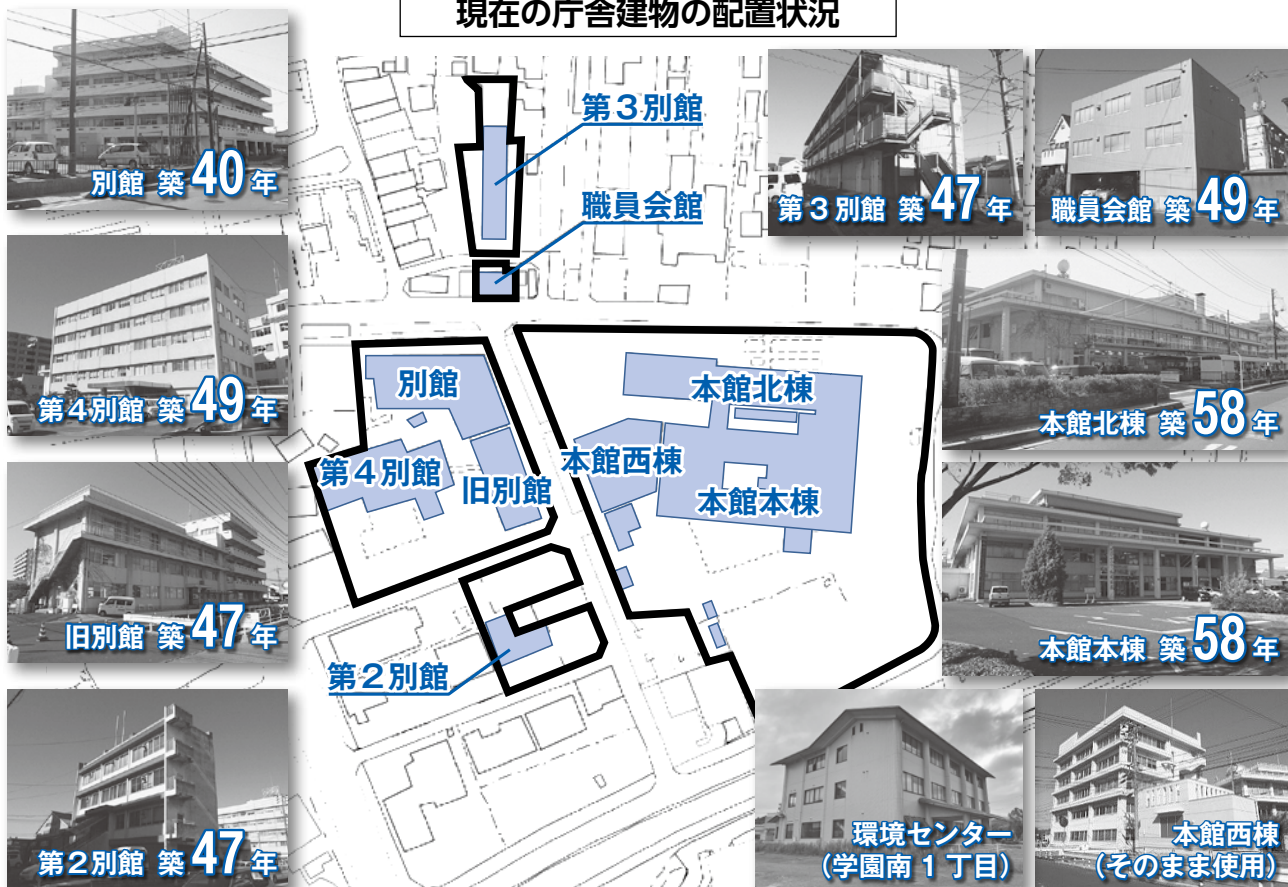
新庁舎整備課 ☎ 55-5454

Q 新庁舎は大きすぎるのでは？

A 分散化した窓口の集約配置のために、一定の広さが必要です。

現本庁舎は多くの建物で経年劣化が進行し、耐震性能がかなり低いことが分かっています。また、手続き窓口が複数の建物に分散しているため、来庁目的ごとに行き先が変わるなど、分かりにくく使いづらいのが現状です。市役所には、高齢者やお子さま連れ、障がい者、外国人などさまざまな人が来庁することから、より分かりやすく、利用しやすい環境が必要です。新庁舎では、これらの課題を解消するため、まだ新しい本館西棟を除く8つの建物と、環境センターの機能を1カ所に集約し、一定の広さを確保した設計としています。また、複数の出入口や広い共用スペースなどを活用することで、コロナ禍を踏まえた「新しい生活様式」にも柔軟に対応できます。

現在の庁舎建物の配置状況



Q

将来、IT化などで市の職員数は減るのでは？

A

業務効率化の一方で、よりきめ細かな対応が求められます。

行政にとっても、人口減少社会やIT技術の導入を踏まえた新たな働き方への対応は喫緊の課題です。本市では住民票のコンビニ交付、電子申請などを実施していますが、現在は手書き申請書のデジタル化、会議の議事録作成などへのAIの活用や、Web会議、RPA(業務の自動化)、テレワークなどの検討にも取り組み始めています。

一方で、地方分権の進展による国や県から市町村への権限移譲や、新たな行政ニーズの発生にもきめ細かく対応する必要があるため、現在でも市役所の業務は増えていく傾向にあります。現在は増加する業務を他の業務の効率化により対応し、職員数が増加しないよう努力しているところです。

Q

テラスを作る必要はないのでは？

A

景観に配慮した、階段形状を有効活用しました。

松江城天守から嫁ヶ島が美しく見えるように配慮した、この場所だからこそ生きてくる景観機能です。テラスの構造は一般的な鉄骨構造で、執務室の屋根部分を人が歩けるようにしたものです。

これまでいただいた多くのご要望をもとに、周辺の公園や水辺環境との一体性と、庁舎本来の事務室機能をできるだけ無駄がないように共存させたものです。

松江城天守から見た新庁舎・嫁ヶ島のイメージ



Q



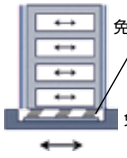
免震構造は過剰な機能では？

A

これからの災害対策本部には必須の機能です。

庁舎には、市民の生命と財産を守る拠点（災害対策本部）という重要な役割があります。大地震が発生した際に庁舎内の復旧に時間をかけず、速やかに市内の災害対応にあたるためにも、今の時代に「免震構造」は必須の機能と考えています。なお、本市の免震装置には検査数値改ざん問題のあった装置（オイルダンパー）を使用する予定はありません。

各構造形式の一般的な比較

構造形式	耐震構造	制震構造	免震構造
概念図	 <p>建物の骨組みを強化し、地震の揺れに耐える構造</p>	 <p>制震装置により地震エネルギーを吸収して揺れを低減し、構造体の損傷を防ぐ構造</p> <p>制震装置</p>	 <p>建物と基礎の間に免震装置などを配置し、地震の揺れを直接建物に伝えない構造</p> <p>免震装置など</p> <p>免震層</p>
大地震時の揺れ	制震構造、免震構造に比べて揺れが大きい。地震力の衝撃を構造躯体で受け止めるため、什器への影響が大きくなる。	耐震構造よりも揺れを低減し、揺れも早くおさまる衝撃を緩和する。什器への影響は大きい。	免震層でほとんどの地震力の衝撃を受け止め、上部構造はゆったりとした揺れとなる。什器 ^{じぶつ} への影響が一番少ない。

※什器：建物内の機材や器具。